

提言第6号 栄養剤投与目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析

事例4

< 事例概要 >

- ・脳梗塞、症候性てんかんの 90 歳代の患者。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖無。
- ・脳梗塞の再発により意識状態が低下し、経口摂取困難となったため、栄養剤投与目的に胃管を挿入した。BMI 26.6。
- ・嚥下機能低下、意思疎通困難、円背、挿入困難歴あり。
- ・看護師が胃管の挿入に難渋し、3 回目の挿入で気泡音を確認した。栄養剤投与前、胃内容物は吸引できず、気泡音を聴取できなかった。仰臥位にすると気泡音が聴取できたため、栄養剤の投与を開始した。約1 時間後、口腔内に分泌物があふれ、少量の吐物があり、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）低下、チアノーゼを認めたため、栄養剤の投与を中断し、抗痙攣薬の投与のみを継続した。不安定な状態は続き、翌日、X 線で胃管が右肺に挿入されていることが確認され、同日死亡した。